資料1

第三次小樽市観光基本計画策定委員会（第 6 回）議事概要

1. 会議概要

・ 日時：2026 年 7 月 10 日（金）13:00～15:00

・ 場所：小樽市保健所講堂

・ 目的：第三次小樽市観光基本計画および提案書案について

2. 議事

（1） 第 5 回委員会の振り返り【資料１】

- 事務局より前回議事の概要について説明。
- 質疑なし。

（2） KGI（Key Goal Indicator【重要目標達成指標】）に関する意見交換

- インバウンド好調との記載は、実態との整合性を含めて表現を検討すべきとの意見があった。
- 市民は小樽の魅力を漠然と理解している一方で、その価値を具体的に説明できていないことが課題ではないかとの指摘があった。
- 「観光都市であることに魅力や活力を感じている市民の割合」の目標値について、設定根拠となるアンケートの母数に関する質問があり、事務局より市政アンケート 353 件を根拠としていることを説明した。

（3） 第三次小樽市観光基本計画の内容に関する意見交換（主な論点）

① 推進体制について

- 観光客と市民を中心に据え、それを行政や DMO が支える構図とするべきとの意見がと、市民の役割を重視しつつも、計画上は事務局案でも違和感はないとの意見もあり、事務局にて整理することとなった。

② 小樽観光の目指すべき姿「真価」の表現について

- 「真価」の背景説明が追加されたことで理解しやすくなったとの評価があった。
- 小樽が北海道開拓や日本の近代化を支えた物流拠点としての歴史や、民間の力によって形成された文化・価値が現代まで継承されている視点を加えるべきとの意見があった。
- 日本遺産の要素や、市民の力が現在も息づいている点を評価する意見があった。
- 市民と観光客の触れ合いを強調するよりも、自然な交流を生み出す環境づくりを重視すべきとの意見があった。

③ 成果目標（KGI）の設定について

- 観光消費額目標を達成するためには滞在型観光の推進が重要であり、宿泊者数を

重視すべきとの意見があった。

- 宿泊者数や来訪者数など、目標達成に必要な具体的指標も示すことで投資や施策展開につながるとの意見があった。
- 「稼ぐ力」という表現については、商業的過ぎるとの意見と、国や DMO ガイドラインでも使用されている一般的な表現との意見があり、計画として適切な表現を検討することとなった。
- 観光の恩恵が市民へ還元される視点を重視すべきとの意見があった。
- 成果だけでなく、市民参加や地域との連携など、成果に至るプロセスも重要であるとの意見があった。

④ 行政の役割・推進体制について

- 「部局横断的な調整」「基盤整備」などの表現は抽象的であり、行政が旗振り役として市民や関係者を巻き込む姿勢を明確に示すべきとの意見があった。
- 観光インフラは市民インフラでもあることから、市民生活の向上につながる観光施策を推進すべきとの意見があった。
- 高齢者の域内消費促進など、市民を対象とした経済活性化の視点も重要との意見があった。

⑤ 今後の進め方について

- 提言書案については、次回委員会までの期間を活用し、委員への事前共有と意見収集を行うこととなった。
- 会議終了後に新たな意見が生じた場合は、メール等で事務局へ提出してもらうことを確認した。

④ 小樽市庁内からの意見紹介

- 「観光客を選ぶ」といった表現は誤解を招く可能性があり、表現方法を検討すべきとの意見が出ている。
- 基本計画としては具体的過ぎる内容もあり、DMO の裁量を確保する観点から一定の抽象化も必要との意見が出ている。

3. その他連絡事項

- 提言書手交式を 2026 年 10 月 28 日に実施予定であり、参加は必須ではないができるだけ参加して欲しい。